

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Familyはじめのいっぽ (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2024年11月10日		2024年12月2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2024年11月10日		2024年12月2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別での療育と集団療育により、利用者様それぞれの特性やニーズ、また発達段階に合わせたプログラムによる支援を行うことができる。	個別療育の時間はさまざまな教員を用いて、利用者様の成長に必要と思われる活動を選択して行っている。また、集団活動では、身体活動のみならず、感覚の入力や季節を取り入れた活動など、5領域を意識した活動を取り入れている。個別と集団支援の両輪により、利用者様の成長発達支援を実施している。	利用者様の変化を観察し、きめ細かくプログラムを変化させていくために、評価用紙やツールを使用した評価を行い、変化を職員で共有していく。
2	多職種がかかわることで、様々な見方をすることができ、アプローチの方法も多様である。	保育士、作業療法士、理学療法士、教員、社会福祉士、精神保健福祉士等が関わっていることで、一人の利用者様に対し、様々な視点でのとらえ方を共有することができている。研修やカンファレンスで、そのとらえ方を共有したり、支援のなかで気づいたことを業務前業務後に伝えあい、ともに考察している。	動画や映像を使用し、より多くの支援者が客観的な情報をもとに、意見を出し合うことでよりよい支援につなげていく。
3	保護者、関係機関との連携を迅速に行い、問題解決できるようにしている。	送迎時やSNSでのコミュニケーションにより、保護者の困りごとや相談を伝えやすいようにしている。保育所などの関係機関や相談支援員とのコミュニケーションもとっており、担当者会議や訪問などの対応を迅速に行っている。	より、多くの利用者様について、関係機関との連携を実施し、どの場面においても、統一した支援ができるように工夫していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者、きょうだい、支援者の交流機会	利用者支援の充実を最優先しているが、家族支援の重要性も理解している。利用者様同士の横の交流の大切さも理解しているが、人員、環境、ニーズの違い等の要因はあるが、今後取り組んでいきたい。	利用者様同士の横の交流についても利用者様の成長発達への課題のひとつとしてとらえて、会の設定、広報を取り組んでいく。
2	子どもに対する対応力向上のための「ペアレントトレーニング」等、家族と支援者がともに学ぶ場の提供	個々に相談を受けたり、連携することや、支援者のみでの勉強会はできているが、保護者と支援者が学ぶ機会が持ていない。共通の知識をもち、そのうえで子どもたちにかかわっていくことで、相互理解につながると考えている。	保護者が参加できる日程の設定が難しいが、年間計画に組み込むなど、努力する。
3	家族や地域に対して、療育での取り組みの開示	個人情報等の課題もあるが、施設内での取り組みや子どもたちの様子を地域の方や子どもたちを取り巻く環境へ伝え、子どもたちが理解される環境をつくるのが大切だと考えているので、今後取り組んでいきたい。	イベントなどへの出展、交流イベントの開催、広報を行い、活動や子どもたちの状況を知ってもらえるよう、取り組んでいく。